

## 終業式あいさつ

おはようございます。

まずは、1, 2年生のみなさん、進級おめでとうございます。そして、今年度1年間、新型コロナウイルスによる様々な制約がある中で、授業に部活に行事に真摯に向き合ってきた皆さんに大きな拍手を送りたいと思います。

さて、春は出会いと別れの季節ですが、本校でも、3月2日に卒業式があり、73期生354名が本校を巣立っていきました。新型コロナウイルス感染防止の観点から在校生の皆さんには出席してもらうことは叶いませんでしたが、厳粛で晴れの門出にふさわしい卒業式でした。また、3月10日には令和3年度入試があり、496名が本校を受験しました。1.38倍の難関でした。そして、昨日合格発表がありました。昨年に引き続き、グラウンドでの合格発表でしたが、合格者から歓声が上がり、喜びの輪が広がりました。

あの日から1年生は約1年、2年生は約2年が経ちました。皆さんは、合格発表の日のことを覚えていますか？あの時の喜びを覚えていますか？そして、あの時に想像した高校生に成長できていますか？

暁高は学校満足度のとても高い高校です。しかし、「授業の予習や復習、部活、行事に追われて毎日本当に忙しくて、予想していた以上に余裕がない。大変や。」そんな感想を持っている人も多いのではないかと思います。

私は卒業式の式辞で「一隅を照らす」という言葉を用いて73期生にエールを送りました。「一隅を照らす」。もともとは比叡山延暦寺を開いた最澄が唐から持ち帰った言葉ですが、荒廃したアフガニスタンやパキスタンの人道・復興支援に尽力した医師中村哲先生の座右の銘として近年脚光を浴びました。

「今いる場所で希望の灯をともし。自分が今いる場所で最善を尽くす。それが、隣人や世界をよくすることにつながる。」という意味です。

私は、暁高生には「何事にも努力を惜しまず、全力で取り組み、最善を尽くす」という、「一隅を照らす」の精神、DNAが受け継がれていると思っています。

暁高での毎日は本当に忙しい。勉強や部活動、友人関係で、上手くいかずに悩んだり、失敗して挫折感を味わうことも多いと思います。しかし、実は、人生においては、挫折を経験することがとても大切です。上手くいかないことの方が多いため、毎日、自分ができていることに真摯に向き合い、全力で取り組む。そして、それを積み重ねることで成長していく。焦る必要はありません。学年末にあたり、今の自分はどうなのか、自問自答してみてください。

4月から皆さんは階段を一段上がります。階段を一段上がれば、見える景色は変わります。より遠くまで見ることが出来ます。しかし一方で、近くの景色、つまり自分自身のことを見失いがちになります。しっかり、自分の弱点と向き合い、高い志を立てて頑張りたいと思います。特に、2年生には次の階段はありません。あるのは、進路という新しい扉です。自分の力でこじ開けることができるように最善を尽くしてください。また、4月からは、1, 2年生ともに、良き先輩として新入生を導いてあげてください。新年度を楽しみにしています。以上で、3学期終業式の挨拶を終わります。